

とままえ

11

No. 615



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひと百景

第64回全日本中学校英語弁論大会 道北地区予選で最優秀賞。全国大会へ

高円宮杯第64回全日本中学校英語弁論大会道北地区予選に出場した古丹別中学校3年生の齊藤ななみさんが見事最優秀賞を収め、11月29日(木)より東京都で開催される本大会へ出場が決まった。

これは暗唱大会と違い、弁論大会ということで内容も自分で考えて作るということで、難易度はケタ違いだ。

しかし、齊藤さんは英語の楽しさと英語の持つ魅力を笑顔で表現、見事栄冠を勝ち取った。将来の夢である「通訳」に向けて1歩も2歩も近づいたと感じた。

- 英語弁論大会で最優秀賞ほか… 2
- プロから演技指導ほか… 3
- 苫商生が札幌市で販売ほか… 4
- 町内小中学校学芸会・文化祭… 5
- 健康ばんざい… 6
- 学びの広場… 7
- 国民健康保険ガイド… 8
- 国民年金・川柳… 9
- 住まいる情報… 10～11
- 議会だよりNO.89… 12～21
- 中学生ギャラリー… 22

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口/3,537人 (男/1,675人/女/1,862人)
世帯数/1,642世帯 (10月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

プロから演技指導 ～10月30日の中学生舞台芸術鑑賞事業での共演に向けて～



9月29日(土)古丹別中学校体育館で劇団なまかによるワークショップが行われ、同校の1～3年生16名が指導を受けた。

これは10月30日(火)に同校体育館で中学生舞台芸術鑑賞事業「カモメに飛ぶことを教えた猫」へ共演するため、行われたもの。

参加した生徒は、劇団からの指導ということもあり、最初は緊張の面持ちだったが、準備体操やアイコンタクト・信頼関係を深めるコミュニケーショントレーニングなどを重ねていくうちに、徐々に緊張感がほぐれていった。

その後、劇に出演するカモメ・ネコ・ネズミのグループに分かれ、演技の仕方や歌唱指導などを体験した。「舞台は広いので、動きは大きく、オーバーにやること」との演技指導に少し恥じらいながらも懸命に練習を重ねていた。

各産業後継者と留萌振興局長が意見交換 ～留萌振興局のラウンドテーブルミーティング～

10月4日(木)に留萌振興局によるラウンドテーブルミーティングが開催され、農業・漁業・商業・工業など各分野の後継者が集まり、竹谷千里留萌振興局長と意見交換を行った。

ラウンドテーブルミーティングとは、地域の様々な声を聞き、地域課題の解決や活性化に向けた取り組みを加速することを目的に開催されているもので、留萌管内では6番目の開催となるもの。

参加者は、村上和也さん、柴田桂子さん、加藤孝幸さん、渡部和人さん、篠原隆宏さんの5名とJA苫前町、北るもい漁業協同組合、苫前支所など関係者が各産業の現状と課題、そして地域の活性化などについて意見交換を行った。

どの産業も人材不足や高齢化による後継者の不在など深刻な状況を伝え、施策や支援の必要性を訴えていた。

10月4日(木)に留萌振興局によるラウンドテーブルミーティングが開催され、農業・漁業・商業・工業など各分野の後継者が集まり、竹谷千里留萌振興局長と意見交換を行った。

ラウンドテーブルミーティングとは、地域の様々な声を聞き、地域課題の解決や活性化に向けた取り組みを加速することを目的に開催されているもので、留萌管内では6番目の開催となるもの。

参加者は、村上和也さん、柴田桂子さん、加藤孝幸さん、渡部和人さん、篠原隆宏さんの5名とJA苫前町、北るもい漁業協同組合、苫前支所など関係者が各産業の現状と課題、そして地域の活性化などについて意見交換を行った。

どの産業も人材不足や高齢化による後継者の不在など深刻な状況を伝え、施策や支援の必要性を訴えていた。



チャリティイベントでの募金を寄贈 ～大新東株式会社苫前支店～



10月5日(金)に大新東株式会社苫前支店より町内の福祉向上のために、先月15日に開催されたチャリティイベント「innとままえ」での募金とままえ温泉ふわたとのフロントや売店に約1年間設置していた募金箱の募金をあわせて町を通じて寄贈した。

島山康夫支店長は「町内の皆様には日頃からとままえ温泉ふわたをご利用いただき大変感謝している。その感謝の意味を込め、町内の福祉向上のために使っていただきたい」と述べ、森町長に目録を手渡した。

森町長は「この度は貴重な募金をありがとうございます。年末に困窮する方のため有効に利用させていただきませう」とお礼を述べた。

秋の森散策と鑑賞炭づくり ～留萌振興局・苫前町教育委員会共催事業～

10月6日(土)に留萌振興局と町教委の共催による秋の森散策と鑑賞炭づくりが九重にある古丹別実験林と水辺の楽校を会場に町内外より約20名の参加で開催された。

森の観察とマツボックリなどの木の実などを採取し、素材のままの形を活かした見て楽しむことができる鑑賞炭を作り、森林に親しみを感じてもらおうことを目的として行われた事業では、古丹別実験林内でも、木の枝やどんぐり、マツボックリなどを採取、水辺の楽校内で採取したもののや事前に準備した栗などをアルミ缶に入れ、炭化させる作業を行った。

約20分ほどでできた鑑賞炭を目にした参加者は「うまくできた」「きれいに焼けた。早速家に飾ろう」と満足した様子だった。

10月6日(土)に留萌振興局と町教委の共催による秋の森散策と鑑賞炭づくりが九重にある古丹別実験林と水辺の楽校を会場に町内外より約20名の参加で開催された。

森の観察とマツボックリなどの木の実などを採取し、素材のままの形を活かした見て楽しむことができる鑑賞炭を作り、森林に親しみを感じてもらおうことを目的として行われた事業では、古丹別実験林内でも、木の枝やどんぐり、マツボックリなどを採取、水辺の楽校内で採取したもののや事前に準備した栗などをアルミ缶に入れ、炭化させる作業を行った。

約20分ほどでできた鑑賞炭を目にした参加者は「うまくできた」「きれいに焼けた。早速家に飾ろう」と満足した様子だった。



離婚危機のやりとりをコミカルに ～宝くじ文化公演「月とスッポン」～



10月11日(木)に公民館で苫前町、苫前町教委、一般財団法人自治総合センターなどの主催による宝くじ文化公演「月とスッポン」が約200名の来場で開催された。

出演は、菅原大吉さんと竹内都子さんで、お二人による公演は「月夜の告白」「満月」に続き3回目となる。

離婚を考えた始めた中年夫婦の物語で、夫の一言から離婚問題に発展。きつぱり離婚を決意した妻と離婚に踏み切りがつかず煮え切らない夫が繰り広げるコメディ。

プライベートでも夫婦である菅原さんと竹内さんの息のあったやりとりや夫婦間でも見られるようなシチュエーションに、会場のあちこちから笑いが起こるとともに、月をバックにしたラストのシーンでは少し切なさを感じていたようだ。

札幌地下歩行空間で物販活動 ～苫前商業高等学校3年生によるスマイルウインド事業～



北るもい漁業協同組合苫前支所の水産物の加工品やJA苫前町の野菜など約20の商品が販売され、歩行空間を往来する人が立ち寄り、買い求めていた。

12日当日は、朝9時より机、冷凍庫、パネルの設置、販売商品の陳列や価格表を貼るなどの準備を行い、午前10時30分に販売を開始した。

同校生徒らは前日11日(木)に札幌入りし、市内でチラシを配布、PR活動を行った。

10月12日(金)に札幌の地下歩行空間で苫前商業高等学校(小笠原茂美校長)3年生22名によるスマイルウインド事業が開催された。

この事業は苫前町のPRと特産品の販売活動を併せて行われたもので、事業の実現のため町内の団体や個人からの寄附金で実現した。

仲間同士で地域づくりについて考える ～異業種交流セミナー「友達から始める地域づくり」～

最終回は11月17日(土)に開催される予定。

要」と述べた。

交流を通してできることから取り組んでいくことが必要」と述べた。

1回目目は古丹別市街を散策、2回目となる今回は苫前市街を散策した後、公民館で30年前と現在の様子を比較、10年後の本町がどのようなようになっていくかをグループで考えた。

町内の様々な職種の人と交流し、仲間づくりを行いながら地域づくりについて考えることを目的に実施。



子どものおやつと運動について考える ～親子元気アップ事業・消費者講座～



いたようだ。

また、オレンジ色のサイダーがどのように着色されているかがわかり、参加した親子はその結果に驚いていた。

この事業は体を動かす楽しさと子どものおやつを考える機会の提供を目的に、前半は親子でサイダー作りの実験を、後半は親と子が分かれ、子どもは昔の遊びとゲートボール体験、親はゼロカロリーやおやつのカロリーについて学習した。

ハマボウフウ復活作戦は児童とともに ～町ハマボウフウ研究会～

この日の植え付けには、同研究会員のほか、苫前小学校(岩村直幸校長)1・2年生と古丹別小学校(高谷典義校長)2年生児童あわせて70名が参加した。

同研究会は、本年ハマボウフウを食材として取り扱ってもらえるモニター店を募集、町内外6店に納品するなど、ビジネス化に向けて活動を展開している。

町ハマボウフウ研究会(鎌田孝会長)によるハマボウフウの種の植え付け作業が10月23日(火)に上平地区の海浜植物復元区域で開催された。



昔の道具について調べる ～学社融合事業「昔の道具調べ」～



稲などを脱穀するために使われた千歯扱(せんばこき)の説明に児童からは「今は便利になったなあ」との声も出ていた。

また、郷土資料館では昔の生活道具や農漁業で使用していた道具などを見学するとともに、当時のように使われたかの説明を受けた。

児童らは農業に関する史跡を中心に、小川地区にある大正土功組合の石碑や香川地区の水田発祥の地などを見学し、松岡さんらより説明を受けた。

説明は、町郷土史研究会(野澤哲美会長)の松岡満雄さんと伊藤通康さんが務めた。

10月25日(木)に町内の農業に関する史跡の説明や郷土資料館での昔の道具の説明を行う学社融合事業「町内歴史探検」が開催され、古丹別小学校4年生11名が学習した。



9月30日(日) 苦中祭

情熱 ～魂を熱く燃やせ!!～

10月13日(土) 苦前小学校学芸会

一人一人がベストをつくし精一杯、舞台上でやりぬこう!



10月7日(日) 古丹別中学校文化祭

響け!届け!56の輝く心

10月14日(日) 古丹別小学校学芸会

笑顔ががやけ!古小のスーパースター



地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

公民館前駐車場の排水口付近の補修

渡部工業株式会社(渡部和人代表取締役)が9月29日(土)に苦前町公民館駐車場の排水口付近の補修を地域社会貢献事業として実施した。

公民館駐車場の排水口付近は長年の使用で陥没し、排水口が飛び出た形となっており、降雨の際は水が溜まるなど苦慮しておりましたが、補修していただいたお陰で凹凸がなくなり、水が溜まらなくなったことで利用者の車の出入りの際も安心して利用できるようになりました。

ありがとうございました。

